

【レポート】SUPER FORMULA を舞台にビジネス交流加速！ モータースポーツで鍛えた多様な技術が鈴鹿に集結 第2回技術セッションに日産・Honda・トヨタなど参加 14 社、来場者 180 名超

国内最高峰で最速の自動車レースシリーズである全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下「SUPER FORMULA」)を運営する株式会社日本レースプロモーション(以下「JRP」)は、今シーズンの最終戦が行われた鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて、練習走行が行われた 11 月 21 日(金)に「第2回技術セッション」を開催しました。本セッションは一般社団法人日本自動車会議所および鈴鹿市の後援を受けて実施したもので、7 月の富士スピードウェイ(静岡県小山町)での初開催を上回る、企業・団体参加 14 社、来場者 180 名超となり、ビジネス交流の場として大きく発展いたしました。



＜画像：SUPER FORMULA “金曜日パートナーDAY” 第2回技術セッション in 鈴鹿サーキット＞

今回の技術セッションでは「サステナビリティ」を主軸に、カーボンニュートラル燃料、次世代パワートレイン、低環境負荷の運営技術など多様なテーマが紹介され、会場には F1・フォーミュラ E・スーパー耐久など様々なカテゴリーで鍛えられた技術や研究成果も展示され、来場者の高い関心を集めました。

JRP の上野は、2021 年に発足した「NEXT50」プロジェクトがメーカーの垣根を越えた協力によって生まれた背景に触れながら「モータースポーツはモビリティ産業の発展に寄与する“走る実験室”であり、この技術セッション

はその価値を社会に広く伝えるための新たな取り組みである」と挨拶し、サステナブルな“移動”を守ることが未来の社会・文化を支える基盤になると述べ、本セッションの意義を強調しました。

基調講演では、次世代 EV 開発（フォーミュラ E／日産）、F1 パワーユニット開発（Honda）、水素エンジン実用化への取り組み（トヨタ）、2026 年シーズンから SUPER FORMULA で導入予定の国産セルロースエタノール混合低炭素ガソリン（ENEOS／raBit）、F1 日本 GP でのサステナビリティ実践（ホンダモビリティランド）などが紹介され、モビリティの未来を展望する内容となりました。

展示ブースエリアでは、SUPER FORMULA へ技術提供するパートナー企業を中心に、自動車関連企業や研究機関が最新技術を紹介。180 名を超える技術者・研究者が意見交換を行い、サーキットならではの実走環境と相まって活発な技術交流が生まれました。

JRP は今回の成果を受け、モータースポーツが社会課題の解決や技術革新に寄与する可能性を改めて確認しました。今後も、社会に役立ち、社会から必要とされるモータースポーツを実現するために、モータースポーツを日本のインダストリーとして発展させていく取り組みを進め、パートナー企業や研究機関との共創を一層推進してまいります。SUPER FORMULA を活用した研究・実証や技術発信に関心のある企業・団体は、ぜひお問い合わせください。

なお、技術セッションは 2026 年シーズンに 7 月 17 日（金）および 11 月 20 日（金）の 2 回の開催を予定しています。詳細は決定次第、SUPER FORMULA 公式サイトにてご案内いたします。



開会のご挨拶（全文）

本日はお集まりいただき、誠にありがとうございます。
株式会社日本レースプロモーションの上野でございます。

前回7月富士大会ではじめて開催させていただき、今日、2回目を開催させていただく運びとなりました。
この度、鈴鹿市様と日本自動車会議所様にご後援いただくことができました。
今年始まったばかりの取り組みですが、このような形で第2回を開催することができたこと、心より感謝申し上げます。

少し時間を巻き戻します。2021年にNEXT50発足。
当時はコロナ禍、CN対応の社会的要求、シリーズの存亡の危機・・・そして当時、エンジンサプライヤーでもある、ホンダ、トヨタの両者が、メーカーの垣根をこえてシリーズを再興しようと寄り添ってくれました。それがNEXT50プロジェクトの始まりだったんです。

皆様、ステージ右の方をご覧ください、日産フォーミュラE、ホンダF1パワーユニット、トヨタ水素カロラ。まさにメーカーの垣根を超えた取り組みです。
このほかにも奥のブースでカーボンニュートラル燃料を展示いただいているENEOS/raBit、そしてまさにこのステージ、鈴鹿サーキットであるホンダモビリティランド。今日は錚々たる方々に基調講演をいただくこととなりました。

本日ここにお集まりいただいた皆様は、モビリティ産業に従事する方、もしくはこれからモビリティ産業と関わりたいと考えている方ばかりだと思います。今までもモータースポーツはモビリティ産業の発展のための実験室として多大な貢献をしてきました。
この技術セッションは、モータースポーツが持つ社会的意義を広く知っていただくべく始まりました。そして、「垣根を越える」というキーワードでご説明した通り、サーキットというこのステージはあらゆるメーカーが集う場所なのです。
これまで、モータースポーツイベントといえば、「速い」「カッコいい」クルマを楽しんでいただく、いわゆるクルマ好きの方に向けたイベントがほとんどでしたが、この技術セッションはそんなモータースポーツイベントに新たに「モビリティ産業の発展」という価値を生み出したいとする新しい取り組みです。

我々モータースポーツ業界もモビリティ産業の一員であり、モビリティ共通の社会課題解決に努めていかなければなりません。（冒頭も述べましたが）初開催となった前回の技術セッションでは、自動運転やSDVといったデジタル技術を中心とした講演や展示を行いました。今回はもうひとつのモビリティ発展、社会的課題解決の柱である「サステナビリティ」をテーマとして掲げました。持続可能なカーボンニュートラル社会を実現することは、人々の"移動"そのものを守ることです。
これまでの人類の文化や文明の発展に"移動"は欠かすことができないものでした。

いささか大袈裟な表現になりますが民族大移動やシルクロード、多くの"移動"が人々の文化を育み、生活を支えてき

たのは、紛れもない歴史の事実です。多くの"移動"が制限されたコロナ禍での緊急事態宣言もまだ記憶に新しいですが、サステナブルな移動を実現できなければ、またあのような社会になりかねません。未来の子供たちが行きたい場所に行けるように、会いたい人に会えるように、人々の暮らしと文化を守ることは我々の使命だと考えています。

そして、この取り組みは国内に限らず、様々なモータースポーツカテゴリで行われています。そういった取り組みを多くの方に伝えることができるこの技術セッションという新たな取り組みは、日本だけでなく世界中のモータースポーツに広がっていくべきイベントと捉えております。

今後、SUPER FORMULA が海外に活動の場所を広げていくにあたって、この技術セッションも同様に各国のモビリティとモータースポーツの発展に貢献できるよう、取り組んでまいりたいと考えています。

「国家百年の計」という言葉がありますが、今日、講演いただく内容は我々の50年を越える、まさに「100年先を見据えた」取り組みの数々です。私自身も聴講生として、楽しみにしております。

以上、簡単ではございますが、主催者代表の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

株式会社日本レースプロモーション 代表取締役社長 上野禎久

以下、参考情報

・11/21(金) 開催 SUPER FORMULA金曜日パートナーDAY in 鈴鹿サーキット 第2回 技術セッション基調講演登壇者決定! ~日産 西川氏、HRC 田辺氏らが語る「サステナビリティ×最先端レース技術」~

→ <https://superformula.net/sf3/release/23758/>

・11/21(金) SUPER FORMULA 第2回技術セッション in 鈴鹿サーキットへ 日本自動車会議所および鈴鹿市による後援決定! ~『サステナビリティ×最先端レース技術』をテーマに出展企業&来場者募集中~

→ <https://superformula.net/sf3/release/23621/>

・開催決定!! 11/21(金) SUPER FORMULA“金曜日パートナーDAY”

「サステナビリティ×最先端レース技術」出展&参加募集開始

日産 Formula E, Honda F1 パワーユニット, トヨタ水素エンジン開発の基調講演を実施!!

→ <https://superformula.net/sf3/release/23533/>

・第1回技術セッション開催レポート

→ <https://superformula.net/sf3/release/22242/>

報道関係者からのお問い合わせ先

株式会社日本レースプロモーション 広報担当 TEL. 03-5801-6470 E-mail. media@superformula.net

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 3F-304